

## 投稿ならびに執筆規定

(改定日：2017年1月21日)

1. 本誌への投稿の著者は、日本リハビリテーション連携科学学会会員に限る。
2. 投稿論文の内容は、リハビリテーションに関わるもので、未公開のものに限る。
3. 当誌に掲載が決定した論文等の著作権は、当学会に帰属するものとする。
4. 投稿論文の採否は、複数の査読者の意見をもとに編集委員会で決定する。編集委員会の意見を付けて修正を求めることがある。
5. 投稿は、随時受け付け、採択した論文は、発行される最も早期の巻・号に掲載する。印刷原稿の著者校正は、1回のみとする。
6. 投稿論文の区分は、原著、総説、展望、短報、事例報告、資料、会員の声とする。  
規定枚数1枚は800字に換算する。図表1個は、400字相当として全枚数より減じる。
7. 投稿原稿は、ヘルシンキ宣言の精神に基づき、研究倫理についての検討が行われており、原著、

区分	枚数	組み 上りの 枚数	内容
原著	15	8	リハビリテーション連携に寄与しうる新知見が示され、学術や臨床上、有意義な研究論文
総説	20	10	先行研究を総括し、問題の解明に向けた研究の進展状況を検討した論文
展望	15	8	リハビリテーション連携に関する諸課題について、研究・活動・政策・動向等を概観し、総合的に展望した論文
短報	7	4	リハビリテーション連携に寄与しうる新知見が示され、速報性を重視した論文
事例報告	10	5	リハビリテーション臨床・実践における事例の検討を通して実際的な問題を検討した論文
資料	10	5	リハビリテーション上、有用な資料
会員の声	2	1	海外事情、関連学術集会の報告等

短報、事例報告、資料等では、その旨の記載があるものとする。

8. 研究に利益相反の可能性がある場合（企業等からの研究助成金や寄付金の受け入れ、実験機器等の提供、コンサルタント料や謝金、特許取得など）は、本文の最後に利益相反について記載するものとする。
9. 原稿は、表紙・抄録・本文・文献・図表・図表の説明文で構成し、投稿には原稿、投稿承諾書、投稿添付票（当学会ホームページ [www.reharrenkei.org](http://www.reharrenkei.org) よりダウンロードのこと）をそれぞれ別のPDFファイルで送付する。
10. 和文抄録は、400字以内とする。原著の抄録の場合は、目的、方法、結果、結論に分けて記載する。検索用のキーワードを3～5語添付する。英文抄録を希望する場合は200語以内とし、あらかじめネイティブチェックを済ませる。Key Wordsを3～5語添付する。
11. 原稿は、投稿原稿書式（当学会ホームページよりダウンロードのこと）に則って作成する。常用漢字、現代仮名遣い、算用数字を用いて表記する。
12. 投稿原稿添付票には、以下の項目を記載する。
  - ①希望する論文の区分（上記、6参照）、
  - ②表題（和文および英文）、
  - ③略題（和文表題を20字以内に略したもの）、
  - ④著者名（ローマ字併記）、
  - ⑤所属（著者全員）、
  - ⑥第1著者（代表者）の連絡先（住所、電話番号、FAX番号、電子メールアドレス）、
  - ⑦チェックリスト
13. 原稿の見出し（章・節・項）は、ポイント・システムを用いる。

例) 章：1. 節：1.1 項：1.1.1

それ以降は(1)等を用いる。

14. 図表は、投稿原稿の本文中に挿入を希望する箇所を指示する。投稿の際には、本文とは別の白紙に、鮮明に書かれた図表を1頁につき1個記載し、必要に応じて図表の説明文も添える。

図表の刷上りスペース（図表の表題と説明文を含む）は、原則として片段（横幅80mm）、または段抜き（横幅160mm）になるように作成する。内容により適当な大きさを定めるが、できるだけ片段におさまるのが望ましい。図表中の文字のフォントは、刷上りサイズに適切なものとする。印刷上、雑誌の体裁に著しく外れるなど不相当と考えられた場合に、フォントや形式について修正を要請することがある。これらの修正を印刷会社に依頼する場合や、刷上り1頁大と不適当なサイズの図表掲載の実費は、著者負担とする。

15. 文献は、本文中に引用し、本文末尾に引用順に番号を付して記す。本文中には、右肩番号で対応させて表示する。以下に文献の記載例を示す。記載法は科学技術情報流通技術基準（SIST：<http://sist-jst.jp/perusal/index.html>）による。

#### 15.1 雑誌の場合

【和文例】 河野禎之，朝田隆，木之下徹，ほか. アルツハイマー病患者における日本語版 EuroQol (EQ-5D, VAS) による QOL 評価の信頼性と妥当性の検討. 老年精神医学雑誌. 2009, vol. 20, no. 10, p. 1149-1159.

【英文例】 Rohde, A.; Worrall, L.; Le Dorze, G. Systematic review of the quality of clinical guidelines for aphasia in stroke management. *Journal of Evaluation in Clinical Practice*. 2013, 19 (6), 994-1003.

#### 15.2 単行本（図書）の場合

【和文例・図書の一部】 小澤温. “ノーマライゼーション”. 障害者福祉の世界. 第4版補訂版. 佐藤久夫, 小澤温共著. 東京, 有斐閣, 2013, p. 55-62.

【英文例・図書1冊】 Frank, R. J.; Rosenthal, M.; Caplan, B. eds. *Handbook of Rehabilitation Psychology*. 2<sup>nd</sup> ed. American Psychological Association, 2010.

#### 15.3 翻訳の場合

Gianutsos, R. “Driving consultation and intervention”. *Handbook for the Assessment of Driving Capacity*. San Diego, Academic Press, 2009. (三村將監訳. 医療従事者のための自動車運転評価の手引き. 東京, 新興医学出版社, 2011.)

#### 15.4 ウェブページの場合

厚生労働省 老健局 総務課. “公的介護保険制度の現状と今後の役割”. 厚生労働省. <http://www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/gaiyo/hoken.html>, (参照 2012-07-20).

16. 掲載は無料とする。掲載原稿が規定枚数を越えた場合や、カラー印刷の場合は、著者の実費負担とする。英文タイトル、英文抄録の校閲料および投稿論文の別刷は有料とする。

17. 投稿原稿の送付は、電子メールの添付ファイル(PDF)にて、下記メールアドレス宛てとする。

〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1

筑波大学大学院リハビリテーションコース事務室 気付

リハビリテーション連携科学編集委員会

E-mail : [reha.renkei.toukou@gmail.com](mailto:reha.renkei.toukou@gmail.com)

Fax : 03-3942-6895